

経営比較分析表（令和6年度決算）

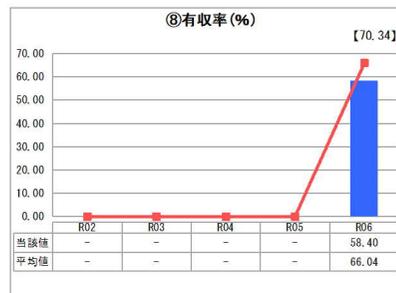
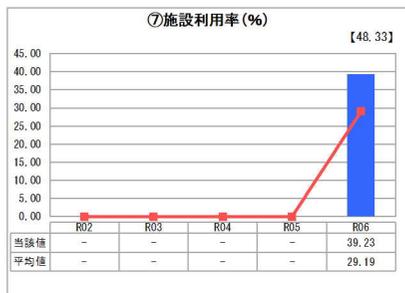
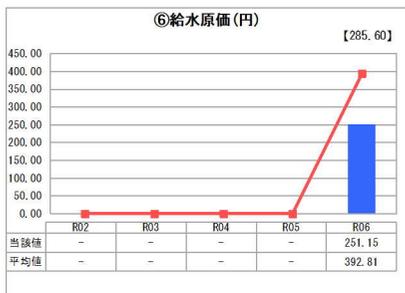
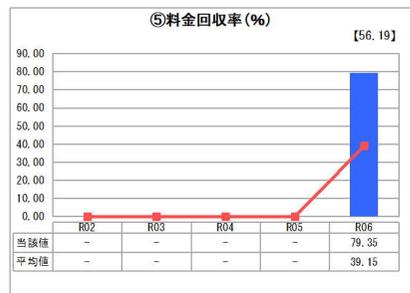
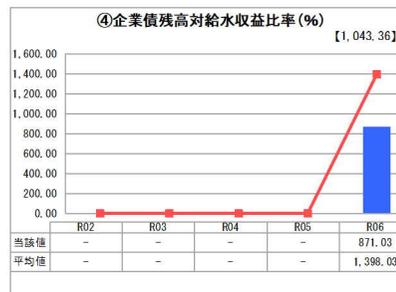
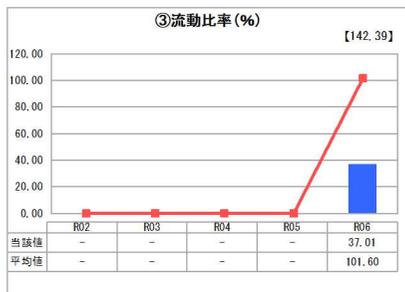
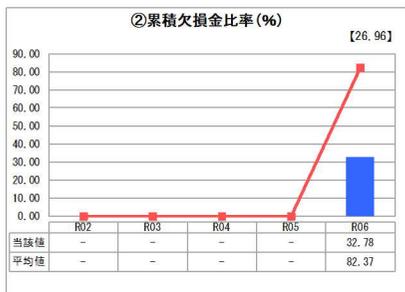
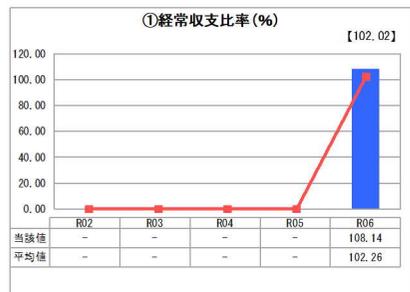
宮城県 七ヶ宿町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C4	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	76.02	97.47	3,380	

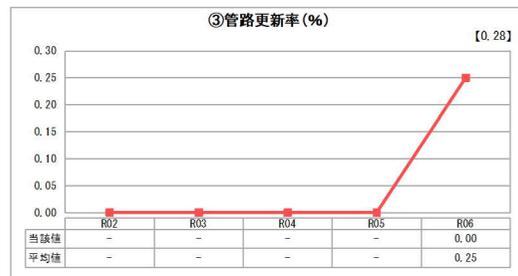
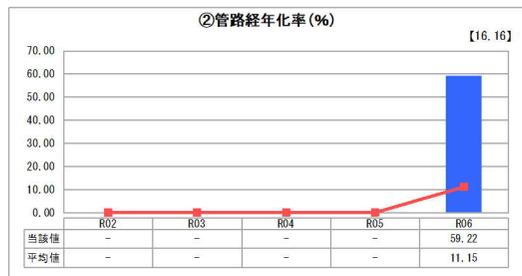
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
1,213	263.09	4.61
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
1,155	5.54	208.48

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
[] 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和6年度より地方公営企業法を適用したため当該年度のみの数値となっている。

①経常収支比率は100%を超えているが、依然として一般会計からの繰り入れに頼らざるを得ない状況にある。繰入金に頼らない経営を進めるため、水道料金の増額と共に、費用の更なる削減が必要である。

②累積欠損比率は32.78%の増となったが、これは法適用の際に、公営企業会計適用債を発行したが、対象経費は資産計上されず、公営企業適用債のみが負債の部に計上されたためである。

③令和6年度が企業会計化の初年度であり、流動資産のほぼ全てを占める現金及び預金が少ないため比率が低くなっている。今後経営を続けることで、比率は改善されていく見込みである。

④企業債残高対給水収益比率（以下、債務残高。）は類似団体と比較すると低い値となっているが、平成28年度より老朽化対策として改良事業を開始したため、今後も水道管の更新事業を実施する計画であることから、債務残高が上昇していくと予想される。

⑤料金回収率は100%を下回っており、一般会計からの繰入金に頼っている状況である。未納入者への周知を強化のほかに適切な水道料金の設定が必要である。

⑥類似団体平均値と比べると、低い金額となっている。今後も維持管理費等の削減を図り、低い原価を維持していきたい。

⑦施設利用率は類似団体平均値と比較すると高い比率となっているが、給水人口が少ない地域の施設もあることから、将来的にはダウンサイジング等の施設効率等の改善が求められる。

⑧老朽化した管路の更新を行っていなかったことから、有収率は58.40%と全国平均、類似団体と比べ下回っている。計画的に、老朽化した管路等の更新を行い、有収率

2. 老朽化の状況について

①令和6年度が企業会計化の初年度であり、比率はかなり低くなっている。数値が低いのは減価償却が今年度から始まったため、管路経年率を見ても分かる通り、施設の老朽化はかなり進んでいる。

②類似団体平均値と比較して比率が高く、管路の老朽化が進んでいる。施設利用率の分析欄にも記載したとおり、給水人口が少ない地域もあることから、施設の統廃合やダウンサイジングなど、あらゆる可能性を模索しながら比率を低くしていきたい。

③主要管路のほとんどが、民地や林地に埋設されており、管路の更新が滞っている状況である。今後、施設の統廃合やダウンサイジングなど、あらゆる可能性を模索しながら並行して計画的な管路の更新に努めたい。

全体総括

経常収支比率は100%を超えていることから、単年度の収支は黒字であるが、料金回収率が低いことからも分かる通り、給水収益以外の収入（一般会計補助金）に依存している状態である。また、管路経年率が高くなっているが、今年度の管路更新率は0%である。このままの経年化が続くと、管路経年率が高くなるに悪化するだけでなく、経常収支比率、料金回収率、給水原価、有収率等様々な指標に悪影響が出るものと考えられる。

そのために、令和8年度には水道料金の増額改定を行う予定であり、平成28年度に策定した「水道事業基本計画」に基づき、必要最低限の設備投資に努め、住民同意を得ながら、水道事業運営を行う。

令和6年度は企業会計化の初年度であり、経年比較が出来ないことから、今後は様々な指標の変化にも注意を払いながら経営を進めていきたい。